

国際会議に参加して得た多くの経験

建社H22 松田 孝一郎



「優秀だ。」と褒めていました。日本の会社が海外で活躍していることを知り、とても誇らしく感じましたと共に、私も来年度から建設会社で働く予定なので身の引き締まる思いがしました。

平成23年12月6日～9日にマレーシアのペナンで開催された国際会議(Rivers2011)に参加してきました。

発表日が6日だったので、4日の早朝に日本を出発し、台湾、香港を経由してマレーシアの首都、クアラルンプールに夜の8時頃に着きました。タクシーで空港からホテルへ向かいました。その道中、荷台の両側で向き合って座っている15人程の男達に乗せた平ボディ車を数台見かけました。日本では見かけない光景に驚き、タクシーの運転手に「あれは何ですか？」と質問すると「建設会社の従業員だよ。」と日本のゼネコンを2、3社挙げ、「日本の会社は

ブランドものの財布、バッグ、時計等を販売する露店が所狭しと立ち並んでいました。中華街に入ると私が日本人だと認識できるようで、日本語で「見るだけ！、安い！」という声が左右から飛び交い、最初は怖くて周りを見ることもできませんでした。私がおどおどしながら歩いていると、露店をしている男性が突然私の腕を鷲づかみして、店内に強引に引きずり込みました。商品を見せられて少しでも興味を示すと電卓を渡され、希望の金額を入力するよう言われるのです。「いらぬ」と言っ

て店を出ようとしても行く手を遮られます。押し問答の末、やっとの思いで店から逃げ出しました。その後はこの強引な商法からの回避方法を模索しました。そこで、何を見せられても興味を持たずブランド名を言われても「知らない」の一点張りで逃げられるという法則を見つけました。日本で感じたことのない活気と勢いに驚きの連続でした。

肝心の発表ですが、発表そのものに関しては、予め発表原稿を完璧に暗記しており、直前まで練習していたので、大学で練習した時よりうま

くいったと思います。しかし、不安が残るのは質疑応答です。質問が予想以上に早口だったため、うまく聞き取ることができず、聞こえてきた単語から質問内容を推測するしかありませんでした。自分の英語能力を最大限に引き出し、精一杯回答しました。しかし、質問者には首を傾げられてしまいました。私はとても恥ずかしくなり、ヒアリング能力を鍛え直すことを心に誓いました。

最後に、国際会議に出席して様々な刺激を受け、知見が広がりました。この場を借り、論文執筆および発表に御指導いただいた鬼束幸樹准教授並びに奨学金を援助していただいた明専会に謝意を表します。

(東洋建設株)



写真-1
ペトロナス・ツインタワー